

筑波山梅林



(表紙写真提供：滝原逸郎氏)

2月。筑波山の中腹、標高250～270m付近に広がる「筑波山梅林」では、白や紅色など色とりどりの鮮やかな景色が広がり、いち早く春の訪れを感じることができます。

筑波山梅林は、昭和41年（1966）、筑波山観光の活性化を図るために、山の中腹を開墾して造成されました。約4.5haの斜面には、白梅800本、紅梅200本、計約1,000本が植えられており、2月下旬～3月中旬に見頃を迎えます。

筑波山中腹には、約6,000万年前の花こう岩が多くあり、特に梅林内では土石流により堆積した「筑波石」と呼ばれる斑れい岩が数多く見られます。

梅林にも巨大な斑れい岩が散在しており、鮮やかな色を放つ小さな梅の花と黒系の巨大な岩のコントラストが織りなす情景は、「筑波山地域ジオパーク」の見どころの1つとなっています。

園内の最上部に建てられた「展望四阿^{あずまや}」は、趣のある茅が用いられ、景観に溶け込んでいます。窓辺からは、梅林、そして山麓に広がる田園風景のほか、晴れた日には東京スカイツリーや富士山まで一望することができます。

新型コロナウイルス感染症が終息した後、ご家族・ご友人とともに、春の訪れを感じられる筑波山梅林を訪れてみてはいかがでしょうか。



◆場所：茨城県つくば市沼田 筑波山梅林

◆アクセス：

【車】常磐自動車道土浦北より国道125号経由で約20km

【電車】つくばエクスプレス「つくば駅」バスターミナルより、筑波山シャトルバスで約40分。「筑波山神社入口」下車徒歩約5分

◆第48回筑波山梅まつり
令和3年2月13日～3月21日